



8月えんだより

2017年 8月1日

社会福祉法人神戸YMCA福祉会
幼保連携型認定こども園
西宮つとがわYMCA保育園
園長：谷川 尚

2017年度年間聖句：「あなたがたは神に愛されている子どもです。」
エフェソの信徒への手紙5章1節
8月聖句：「しかし、必要なことはただ一つだけである」
マタイによる福音書10章42節

夏になり、大人は週間天気予報の気温予想を見ながらため息をつく日が続いていますが、子どもたちは、午前中は水遊び・プールに、午後からも外遊びで、暑さをものともせず元気な過ごしています。環境の変化を喜びに変える力に若さと生の強さを感じます。

とはいえ、暑い中ということもあるでしょう、自分の思いをうまく消化できなかったり伝えられなかったりして、いらいらや泣いていたりする場面を毎日どこかで見かけます。そんな時に、つつい周りにはいる大人は優しく声をかけ何とかその場をなだめようとしがちです。先日モボディーペイントをするため着替えをしていたときに、自分の思っていたのと違う順番になってしまい、泣き出して收拾を自分でもつけられず、先生にやさしくなだめられて、やっとみんなの中に入った女の子がいました。みんなはすでに身体中に指絵の具を塗りたくって大はしゃぎ。でもその子は遅れて入ったせいか、しばらくみんなのことを遠めに見ていました。でも、あるお友だちが手に絵の具を付けた勢いでその子にも絵の具がついたとき、驚きのあとと思わずにっこり笑い、そのあとは自分から絵の具のかたまりを手にとって身体につけ始めました。さっきまでの様子が嘘のようにお友だちと笑いながら遊んでいる彼女をみて、子どもの難しさとともに素晴らしさを感じました。

子どもから大人になるにつれ、多くのことが求められ、周りを見ながら生きることが要求されていきます。そんな中で子どもが「困らないように」「迷惑をかけないように」「しっかりできるように」と大人は思って、子どもに目をかけ、手をかけ、声をかけています。でも心が動かないのにあれこれ言われてやったことが子どもを変えていく力になるのでしょうか？ 声をかけることも手をかけることも必要ですが、本当に必要なのは「子どもが自分で心を身体を動かす」ことでしょう。子ども自身が主体的にやったことは、喜びや達成感を得て、経験したことが育ちが変わっていきます。先日、保育園キャンプをともに過ごしている中で穏やかな時間の中で子どもが普段見られないような素敵な姿をたくさん見せてくれました。その中で、日常の忙しさの中で、つつい子どもにやらさないといけないことに大人は心が向いて手をかけていること、でも子どもの成長に一番大切なことは子ども自身が気持ちを向けられることを少しでも増やしていくことだと、改めて感じさせられました。今、必要なことは何か、を問いかけながら日々の時間を豊かにしたいと思います。

月主題	たのしむ	
月のねがい	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
	<ul style="list-style-type: none"> 水・土・砂に触れて遊ぶ 夏の遊びを楽しむ 夏の生活をゆったりと健康に過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びたい友だちや、やりたいことがはっきりして、遊びが続くようになる 土・砂・水に親しみ、夏の遊びを楽しむ 遊びの中で考えたり試したりする楽しさを経験する 健康に過ごすための生活習慣を身につける